

第1学年 社会科学学習指導案（歴史的分野）

1年1組 男子20名 女子20名 計40名

指導者 清水 暁子

【授業】13:30～14:20 会場 1年1組 （2階）

【協議会】14:30～15:20 会場 マルチ教室（3階）

1 単元名 身近な地域の歴史（富山県の国宝）

2 単元について

（1）単元／題材設定の趣旨

①学習指導要領における位置付け

本単元は、平成29年告示中学校学習指導要領の歴史的分野の大項目「A 歴史との対話」、中項目「(2) 身近な地域の歴史」にあたる。「自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること」や「比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること」をねらいとする。また、平成29年告示中学校学習指導要領解説社会編には、「この大項目は、歴史的分野の学習の導入として、歴史的分野の学習に必要とされる基本的な『知識及び技能』を身に付け、生徒が、過去を継承しつつ、現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ、歴史的分野の学習を通して、主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度を養うことをねらいとしている。」とある。

②本時について

本時では、身近な地域の文化財として、富山県にある2つの国宝寺院である瑞龍寺と勝興寺を取り扱う。特に、瑞龍寺との比較を通して明らかとなる勝興寺の特徴に着目してねらいに迫る。

1997年に富山県で初めて国宝に指定された曹洞宗高岡山瑞龍寺は、加賀前田家2代当主前田利長の菩提寺である。利長は高岡に築城しこの地で亡くなった高岡の開祖ともいえる人物で、利長の菩提を弔うために3代当主利常により建てられた。荘厳かつ美しい佇まいは、加賀百二十万石の権威と財力を示し、使用されている木材等も最高級の代物である。

そして、瑞龍寺の国宝指定から25年後の2022年に富山県で2番目の国宝となったのが浄土真宗本願寺派の雲龍山勝興寺である。勝興寺は1471年に本願寺派八世蓮如上人が創建した土山御坊（南砺市福光）を起源とする浄土真宗の古刹である。現在の伏木古国府に寺基を構えたのは1584年のことで、浄土真宗が北陸に広がる際に、加賀前田家や本願寺などとの関係を深め、地域の一大拠点として権勢を誇った。全国の国宝・重要文化財の寺の中でも破格の規模を誇る勝興寺であるが、いわゆる「平成の大修理」では、大広間（対面所）が西本願寺の対面所の造りを模して増築されていたことが判明し、浄土真宗の対面所の整備過程を体現している点も、国宝指定の理由のひとつとなった。

一方で、勝興寺の本堂に使用されている木材は木目が多く梁は曲がっており、瑞龍寺の高級感あふれる造りとは対照的である。また、いずれの寺も江戸時代の建造物であるが、瑞龍寺は建立当時の寺域の3分の1程度しか現存していないのに対し、勝興寺は寺域は変わらず建造物の9割以上が当時のまま現代に残っている。そこで、本時では「なぜ、富山県の国宝勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのだろうか。」という学習課題のもと、身近な地域の歴史の謎を紐解く中で、今後の歴史的分野の学習に必要な視点や方法を獲得していく展開とした。

中世以降、一向一揆の舞台となった北陸は、浄土真宗の勢力が急速に拡大した。富山県においても、江戸時代には民衆の90%ほどが浄土真宗の門徒であったとされる。瑞龍寺と勝興寺がある高岡市は、15世紀後半の蓮如上人による布教以降、それまで多かった時宗の寺のほとんどが浄土真宗に

宗旨替えし、現在では市内に時宗の寺は一つも残っていない。また、16 世紀後半、羽柴(豊臣)秀吉が佐々成政を攻めた際に勝興寺は秀吉に加担し、太閤検地や刀狩を受け入れる代わりに、禁制による寺の保護を受けた。それ以降、寺は一向一揆の拠点となったことはないという。後に、宗派は違うものの加賀前田家も同じく勝興寺に禁制を与え、寺を保護した記録が残っている。秀吉と加賀前田家に共通しているのは、どちらも当時北陸で勢力をふるった浄土真宗の門徒たちを味方に付けて政治的に利用した点である。明治維新が起これと、廃藩置県によって加賀藩の藩政が崩壊したことで瑞龍寺は加賀藩の援助を失い、金銭的に困窮した際には、寺の様々なものを売って切り盛りしたという。一方の勝興寺は、近代以降各地の大名の菩提寺が没落していく中で、当時民衆の多くを占めた浄土真宗の門徒によって守られ、ほとんどかつての姿のまま現代に残されることとなった。

二つの寺は「誰のために建てた寺か」という点に大きな違いがある。瑞龍寺は前述の通り、加賀藩の威信をかけて建てた加賀藩のための寺であり、その性質上、一般民衆を受け入れる寺ではない。そのことは伽藍配置を見ても、うかがい知ることができる。瑞龍寺の場合は敷地を囲むように閉鎖的な伽藍配置となっているが、勝興寺は民衆のために建てられた寺という側面が強いため、伽藍配置は開放的で誰でも入りやすい造りとなっている。勝興寺は時に強力な為政者の力を借り、藩政が崩壊しても多くの民衆たちの支えによって存続してきたのである。生徒には二つの寺の共通点や違いから「なぜ」を生み出し、学習課題に対して多面的・多角的に考察させたい。

(2) 生徒の実態

小学校の歴史は人物学習が中心であるのに対し、中学校では時代の大観や変遷を理解することが学習の中心となる。織田信長や豊臣秀吉のような歴史に名を残す人物だけではなく、宗教や民衆といった存在が、時として社会の変化、あるいは維持をもたらす原動力となることを、本時の学習を通して実感させたい。

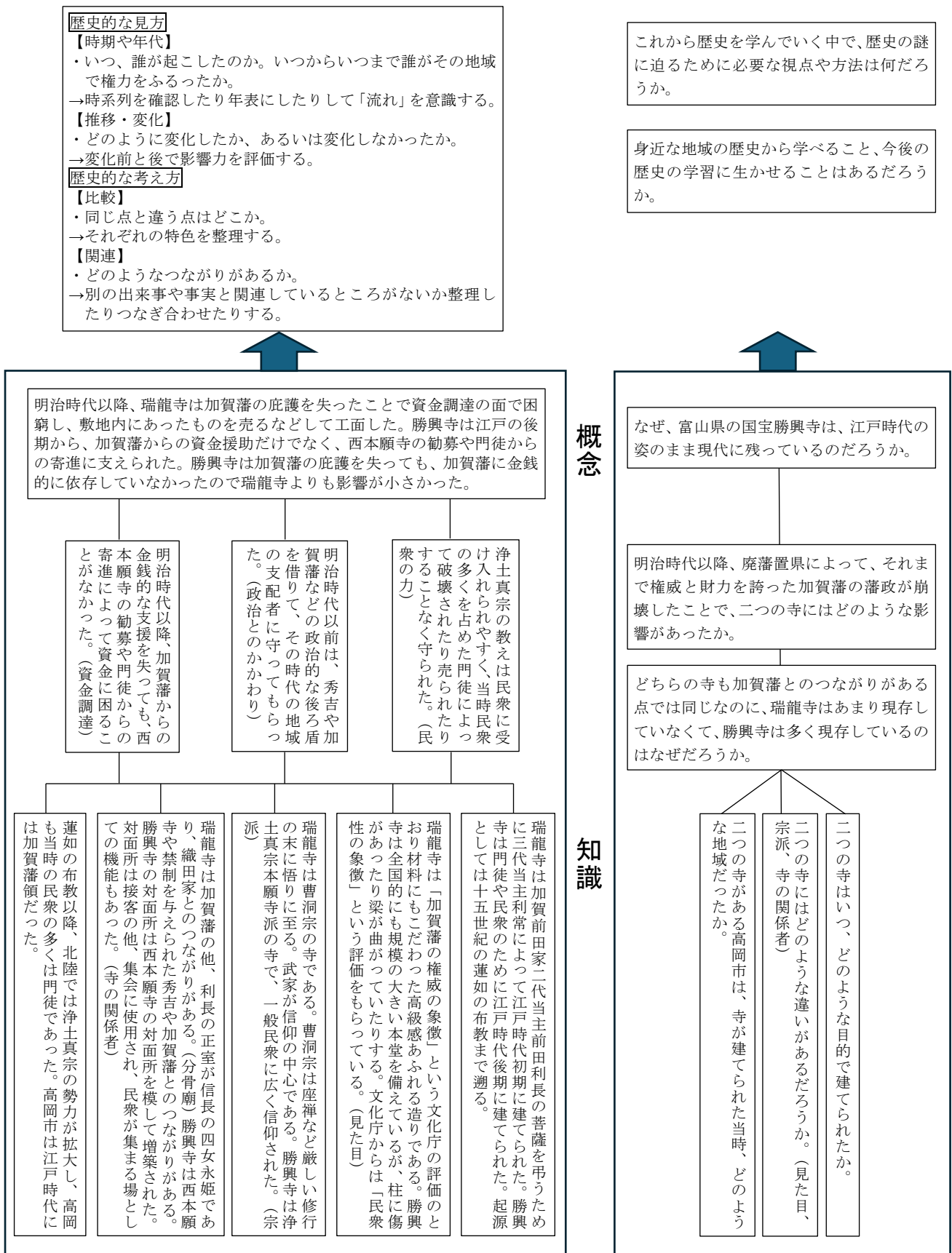
生徒はこれまで「古代ギリシャやローマ市民にとって、最も理想的な政治のしくみといえるのはどれだろうか。」という学習課題について、討論を通じて追究活動を行った。古代ギリシャの哲学者アリストテレス『政治学』を参考に、王や皇帝が一人で行う政治と、貴族などの少数が行う政治、多くの市民が行う政治の、どれが当時の人々にとってよい政治といえるのかを、歴史的事象を根拠に理由付けをして主張する活動を行った。多くの生徒が歴史的事象を根拠に理由付けをして主張することができた一方で、未だ不慣れな様子も見受けられる。また、事象のつながりを見出し、因果関係を説明することに苦手意識をもつ生徒もいる。本時では、「なぜ」という問いを追究する過程で、説得力のある説明や主張する力を身に付けさせたい。

(3) 指導の構え

本時では、二つの寺の比較、つまりは、見た目の違いや宗派の違い、寺の関係者の違いを切り口に学習課題の解明に迫る。そして、「政治」「経済」「文化(宗教)」といった側面や、その時代の「支配者」「民衆」といった立場に着目して考えることで、今後の歴史の学習に必要な、歴史的事象に対して多面的・多角的に考察することの大切さに気付かせたい。さらに、現在でも北陸や富山県は浄土真宗が根強い地域であることなどから、歴史を過去のものとせず、今とのつながりにも目を向けられるようにしたい。

本単元で「深い学び」が実現している状態を、次の図に示した。

◆「知識の構造図と発問の構造図」



3 研究主題・副題との関連

本校の研究主題である「主体性の高まりをめざす課題学習」と関連し、富山県にある文化財を取り扱うことで、身近な地域の歴史に興味をもつとともに、生徒が進んで追究したくなるような学習課題を設定した。また、副題「学びの往来を通して『自立した学習者』を育成する」に関して、次の仮説を立てて授業を構想した。

①自立した学習者

「自立した学習者」を「学びの自己調整ができる生徒」と仮定した。学びの自己調整ができるとは、(3)で示したような深い学びに到達するまでの、学びの見通しをもつことができることである。例えば、歴史的分野の学習においては、歴史を学ぶ上で必要な視点や方法を自ら獲得できることである。それは、「歴史的な見方・考え方」を働かせ、今後の学習に生かすことにつながる。一般的に歴史の学び方といえば、年代の古いものから順に網羅的・羅列的に学習していくことを思い浮かべることがあるだろう。しかし、このような学び方のみでは、知識を量的に増やすだけで、学んだ知識から順に忘れていく上に、他の社会的事象や理論に応用することのない（転移しない）知識となってしまう可能性がある。本時で学習する勝興寺や瑞龍寺は、中近世の社会を時代背景とし、教科書の学習する時期でいえば中学校1年生の後半、あるいは中学校2年生に該当する。しかし、中学校に入学して間もない1年生の前半の時期に身近な地域の文化財を取り上げ、歴史の謎に迫る過程で、今後の学習ではどのようなことに目を向け、どのような知識が必要か、生徒自身が実感できれば、3年間の歴史的分野の学習の見通しがもて、学びのゴールに向けて逆算していくことができるのではないかと考えた。

②学びの往来

学習課題を追究していくにあたり、過去の自分と今の自分の学びの往来を意識できるような手立てを考えた。社会科は、社会で起きているできごと（社会的事象）を他者に「説明する」教科である。議論においては、異質な価値観をもつ他者に自身の主張を伝えようと練り、練り直す必要がある。そこで、このような姿を社会科における粘り強さや調整する姿と捉え、他者に説明するための推論の過程が分かるようワークシートを工夫した。学習課題に対する説明が説得力のあるものとなるよう作り変えていく変化が見えることで、過去の自分と今の自分を比較し、調整していく「自立した学習者」の育成につながるのではないかと考えた。

4 単元の目標

- 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けることができる。〔知識及び技能〕
- 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- 他者との対話から知識を得て、課題に対しての説明をつくり、それをよりよいものに更新するために考え続け、主体的に課題を追究することができる。〔学びに向かう力、人間性等〕

5 全体計画（全4時間）

第1次 身近な地域の歴史にはどのようなものがあるのだろうか。 …1時間

第2次 なぜ、富山県の国宝 勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのだろうか。

…3時間（本時3／3時間）

過程	教師による発問・指示 学習課題	期待される生徒の反応や活動 (獲得される知識・概念)
第1次 (1/4)	・ 身近な地域の歴史にはどのようなものがあるのでしょうか。富山県の文化財に着目してみましょう。 ・ 富山県にある二つの寺です。どこの寺でしょうか。 ・ 国宝とは何でしょうか。 ・ 二つの寺はどんな寺なのでしょう。二つの寺の共通点や違いはありますか。 ・ どちらの寺も建てられた時期は江戸時代ですが、高級感あふれる瑞龍寺の方は当時の3分の1しか現存していません。一方で、勝興寺は9割以上江戸時代の姿のまま残っています。 ・ なぜ、富山県の国宝 勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのでしょうか。	・ 瑞龍寺と勝興寺。富山県高岡市にある国宝の寺。 ・ 重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化史的意義の特に深いもの。 ・ どちらも仏教の施設で、江戸時代に建てられた。 ・ 瑞龍寺は高級感ある造り。お金がかかっている。勝興寺は大きい柱が痛んでいるところもあって対照的である。 ・ 瑞龍寺は材料に高級品が多く使用されているから盗まれてしまった。売ってしまった。 ・ 瑞龍寺の一部は空襲や火災で焼けてしまったが、勝興寺は被害に遭わなかった。
第2次 (2/4)	・ なぜ、富山県の国宝勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのだろうか。 ・ 二つの寺はいつ、どのような目的で建てられたのでしょうか。 ・ 二つの寺にはどのような違いがあるのでしょうか。(見た目、宗派、寺の関係者)	・ 瑞龍寺は加賀前田家2代当主前田利長の菩薩を弔うために3代当主利常によって江戸時代初期に建てられた。勝興寺は門徒や民衆のために江戸時代を通じて建てられた。起源としては十五世紀の蓮如の布教まで遡る。 ・ 瑞龍寺は「加賀藩の権威の象徴」という文化庁の評価のとおり材料にもこだわった高級感あふれる造りである。勝興寺は全国的にも規模の大きい本堂を備えているが、柱に木目が多かったり梁が曲がっていたりする。文化庁からは「民衆性の象徴」という評価をもらっている。(見た目、建物の役割や機能) ・ 瑞龍寺は曹洞宗の寺である。曹洞宗は座禅など厳しい修行の末に悟りに至る。武家が信仰の中心である。勝興寺は浄土真宗本願寺派の寺で、一般民衆に広く信仰された。(宗派)

	・ 他にも、二つの寺の違いはありますか。	・ 瑞龍寺は加賀藩の他、利長の正室が信長の四女永姫であり、織田家とのつながりがある。(分骨廟) 勝興寺は西本願寺や禁制を与えられた秀吉や加賀藩とのつながりがある。勝興寺の対面所は西本願寺の対面所を模して増築された。対面所は接客の他、集会に使用され、民衆が集まる場としての機能もあった。(寺の関係者) ・ 文化庁の評価や誰のために建てられた寺かという点に違いがありそうだ。		
第2次 (3/4)	□ 二つの寺がある高岡市は、寺が建てられた当時、どのような地域だったのでしょうか。 □ どちらの寺も加賀藩とのつながりがある点では同じなのに、瑞龍寺はあまり現存してなくて、勝興寺は多く現存しているのはなぜだろうか。 □ 加賀藩は江戸時代までは地方の中でも強大な経済力をもっていました。明治時代以降はどうなりましたか。また、それはなぜですか。	・ 蓮如の布教以降、北陸では浄土真宗の勢力が拡大し、高岡も当時の民衆の多くは門徒であった。高岡市は江戸時代には加賀藩領だった。 ・ 加賀藩とのつながりの深さやいつからいつまで加賀藩が力をもったかが関係しているのではないか。 ・ 明治維新が起き、廃藩置県によって藩は県になり、前田のお殿様は東京で華族となり、代わりに中央政府から県令が来たことで、かつての北陸での加賀藩の影響力はなくなった。		
第2次 (4/4)	・ <table><tr><td>なぜ、富山県の国宝 勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのだろうか。</td></tr><tr><td>(本時)</td></tr></table>	なぜ、富山県の国宝 勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのだろうか。	(本時)	・ 省略
なぜ、富山県の国宝 勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのだろうか。				
(本時)				

6 本時の学習（全4／4時間）

（1）指導目標

- ・ 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、なぜ、富山県の国宝 勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのかについて、多面的・多角的に考察し、根拠を明らかに理由付けして説明させる。
- ・ 現代を生きる生徒の立場から歴史に問いかけ、歴史の謎を紐解く過程で、今後の歴史の学習に必要な視点や方法に気付かせる。

〔思考・判断・表現〕

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
1 前時までの学習を振り返る。 同じ点 ・どちらも仏教施設、高岡にある国宝、現在の建造物は江戸時代に建てられたもの。 ・どちらも加賀藩とのつながりがあった。 違う点 ・見た目の違い…瑞高級木材⇔勝柱に傷 伽藍配置：左右対称、囲み⇔ばらばら ・宗派の違い…瑞曹洞宗⇔勝浄土真宗本願寺派 ・寺の関係者の違い…瑞加賀藩、信長 ⇔勝加賀藩、秀吉、西本願寺、民衆 2 本時の学習課題を確認する。	・富山県にある二つの国宝瑞龍寺と勝興寺の共通点や違いを想起させる。
なぜ、富山県の国宝勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのだろうか。	
3 ペアで意見交換する。 4 全体で意見交換する。 見た目の違いから ・瑞龍寺は加賀藩の財力を示すように高級な寺の造りになっているが、廃藩置県で加賀藩の影響力がなくなった明治時代以降は、金銭的な援助や後ろ盾を失ってしまったので、困窮した際に敷地内のものを売るなどして、建立時より現存が少なかった。対して、勝興寺は伽藍配置も瑞龍寺と比べて開放的な造りで民衆のための寺であり、加賀藩の援助がなくなるのは同じでも、多くの民衆に守られたのではない。民衆にとって親しみやすい寺であることは文化庁の評価の違いにも表れている。 ・対面所は西本願寺をまねて増築しており、本願寺派の本山である西本願寺とのつながりを示すことで門徒からの支援をより受けられたのではない。【文化（宗教）の側面】 ・全国の国宝・重要文化財寺院の上位はほとんど浄土真宗の寺で、勝興寺も全国で9番目に大きいので、門徒からの支援が多かった。 宗派の違いから ・曹洞宗は座禅などの厳しい修行の末に救われる教えで武家が中心であるが、浄土真宗はよ	・根拠を明らかに理由付けして説明することを意識するよう助言する。 ・生徒がどのような違いに着目したか分かるよう板書に位置付ける。 学習評価の観点 ・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、なぜ、富山県の国宝 勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのかについて、多面的・多角的に考察し、根拠を明らかに理由付けして説明することができる。 【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート記述)

り分かりやすく簡単な教えであり、一般民衆が中心である。二つの寺がある高岡市周辺は民衆の多くが浄土真宗の門徒で、勝興寺は多くの民衆にとって大切な寺だから壊されたり売られたりすることなく守られた。

寺の関係者の違いから

- ・秀吉や加賀藩が地域の支配者だったころは、禁制を与えられることで、寺への暴動や放火から守ってもらうことができた。支配者からすると、民衆の多くを占めた門徒を味方にするができる。政治的に利用した。【政治の側面】
- ・西本願寺が浄土真宗の寺院や門徒に資金を募るよう通知（勧募）するなど、勝興寺は門徒からの寄進も多く、瑞龍寺と違って加賀藩に資金面で依存していなかったから政治の体制が変化しても資金調達に困ることはなかった。【経済の側面】

5 学習課題に対するまとめを推論シートに記入する。

6 学習課題を追究することを通して、今後の歴史の学習に必要な視点や方法（歴史の謎に迫るために必要なこと）は何か考える。

※（ ）は具体例、→は方法

歴史的な見方

【時期や年代】

- ・いつ、誰が起こしたのか。いつからいつまで誰がその地域で権力をふるったか。（その時の寺の関係者は誰か、その時の地域の支配者は誰か。）

→時系列を確認したり年表にしたりして「流れ」を意識する。

【推移・変化】

- ・どのように変化したか、あるいは変化しなかったか。（加賀藩は江戸時代では栄えたが、明治時代以降はどうなったか。）

→変化前と後で加賀藩の影響力を評価する。

歴史的な考え方

【比較】

- ・同じ点と違う点はどこか。（瑞龍寺も勝興寺も加賀藩とつながりがある

- ・権力者の立場からすると、禁制を与えることはどのようなメリットがあるのかと問い、立場を意識して相互関係を説明できるようにする。
- ・浄土真宗の門徒が多かったことについて、教えの内容にどのような違いがあるのか、二つの寺が誰のための寺なのかという違いに着目できるよう助言する。
- ・瑞龍寺と勝興寺はどちらも加賀藩との関わりがある点では同じだが、強大な経済力を誇った加賀藩も栄枯盛衰で明治時代以降には影響力がなくなっていくことの変化と、加賀藩の庇護を失っても勝興寺への影響が小さかった点に着目できるよう助言する。

学習評価の観点

- ・現代を生きる生徒の立場から歴史に問ひかけ、歴史の謎を紐解く過程で、今後の歴史の学習に必要な視点や方法に気付くことができる。【思考・判断・表現】（発言・ワークシート記述）

のに、勝興寺の方が多く現存しているのはなぜか。） →それぞれの寺の特色をまとめる。 【関連】 • どのようなつながりがあるか。 (寺とその時の支配者や関係者とはどのようなつながりがあったか。なぜ、勝興寺の方が一般民衆からの寄進が多かったのか。西本願寺とはどのようなつながりがあるのか。) →別の出来事や事実と関連しているところがないか整理したりつなぎ合わせたりする。	
--	--

(3) 授業観察の視点

- 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、なぜ、富山県の国宝 勝興寺は、江戸時代の姿のまま現代に残っているのかについて、多面的・多角的に考察し、根拠を明らかに理由付けして説明させるための授業構成（学習課題、発問、資料提示、意見の取り上げ方などの手立て）は適切であったか。また、どのようにすればよかったのか。
- 現代を生きる生徒の立場から歴史に問いかけ、歴史の謎を紐解く過程で、今後の歴史の学習に必要な視点や方法に気付かせるための授業構成（学習課題、発問、資料提示、意見の取り上げ方などの手立て）は適切であったか。また、どのようにすればよかったのか。

(4) 板書計画（別のクラスの授業の板書）

なぜ、富山県の国宝 勝興寺は江戸時代の姿のまま現代に残っているのか

同じ (江户時代)

- 江戸時代
- 加賀藩との関係
- 寺の歴史
- 寺の関係者
- その他?

違う

- ① 江戸時代
- ② 明治時代以降
- ③ 戦後

比べる

- 西本願寺と勝興寺の比較
- 寺の歴史
- 寺の関係者
- その他?

結論

- ① 江戸時代
- ② 明治時代以降
- ③ 戦後

まとめ

- 寺の歴史
- 寺の関係者
- その他?

(5) ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	富山県の国宝 瑞龍寺と勝興寺について、年代や宗派、時代背景など複数の視点に着目して、共通点や違いを理解している。	複数の歴史的事象を相互に関連付けて、課題に対して多面的・多角的に考察し、根拠を明らかに理由付けして説明することができる。 今後の歴史の学習に必要な複数の視点や方法に気付いている。	他者との対話から知識を得て、課題に対しての説明をつくり、それをよりよいものに更新する(自己調整)ために考え続け(粘り強く)ようとしている。
B	年代や宗派、時代背景などいずれかの視点に着目して、共通点や違いを理解している。	課題に対していずれかの立場や側面から考察し、根拠を明らかに理由付けして説明することができる。 または、根拠を挙げることができるが理由付けができない。理由付けはできるが根拠を挙げるができない。 今後の歴史の学習に必要な視点や方法の一つ挙げることができる。	対話の中で他者の考えに目を向けようとしている(自己調整の萌芽)。／課題に対して自分なりによりよく説明することを試みようとしている(粘り強さの萌芽)。
C	二つの寺の共通点や違いを理解していない。	課題に対して、立場や側面から考察することができない。また、根拠を明らかに理由付けして説明することができない。 今後の歴史の学習に必要な視点や方法の一つも挙げることができない。	対話の中で他者の考えを聴こうとしている。／課題に対して自分なりに少しでも説明しようとしている。

〔主な参考文献〕

【方法論】

- ・ 岡崎誠司『社会科の授業改善 1 見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013 年
- ・ 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書出版、1978 年
- ・ 森分孝治・片上宗二編『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書出版、2000 年

【内容論】

- ・ 勝興寺文化財保存・活用事業団「勝興寺境内の文化的価値に関する調査研究報告書」概要版、2023 年
- ・ 文化庁「文化財に関する基礎資料」平成 29 年 11 月

資料提供、聞き取り調査

- ・ (公財) 勝興寺文化財保存・活用事業団